保管用
保証書付き

エクシーゴ
EXIGO20
取扱説明書

この度は、弊社製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
製品を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書をかならずお読みください。また、ご使用いただく際にはかならず携帯していただくか、いつでも確認できるところに保管してください。製品に関して不明な点や不都合なことがございましたら、ご購入販売店もしくは弊社カスタマーサポートへ連絡してください。

ＳＧマーク制度は、製品の欠陥によって発生した人身事故に対する賠償制度です。

※製品は改良のため仕様の一部を予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

はじめに

この車いすは、自身でハンドリムを駆動して操作する1人乗り用 手動・自走式車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背もたれ）の角度調整、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がない標準型の自走用車いすで、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

自走用標準型	一般的に用いる自走用車いすで、後輪にハンドリムを装備し、バックサポート（背もたれ）の種類は固定式、着脱式、折りたたみ式及びそれらと同等の方式であり、特別な座位保持具はつかず、任意にバックサポート（背もたれ）角度が変えられないもので、前輪はキャスタ、後輪は大径（※）車輪の４輪で構成したもの。
介助用標準型	一般的に用いる介助用車いすで、特別な座位保持具やハンドリムはなく、バックサポート（背もたれ）の種類は固定式、着脱式、折りたたみ式及びそれらと同等の方式であり、任意にバックサポート（背もたれ）角度が変えられないもので、前輪はキャスタ、後輪は中径（※）以上の車輪で構成したもの。

※大径とは呼び18(外径が約476mm)以上のタイヤ大きさを、中径とは呼び12(外径が約310mm)以上18未満のタイヤ大きさをいう。

エクシーゴ
EXIGO20について

エクシーゴ
EXIGO20は、市場のニーズに沿って開発されました。
車いすからの移乗に必要な箇所は全て着脱可能な設計で、高い剛性を持ちながらも
座幅＋21.5㎝という全幅なので、幅のせまいドアなどでもご使用いただくことができます。
折りたたみ時の幅も30㎝とコンパクトなので、乗用車のトランク等にも楽に入ります。

エクシーゴ
EXIGO20は屋内外兼用です

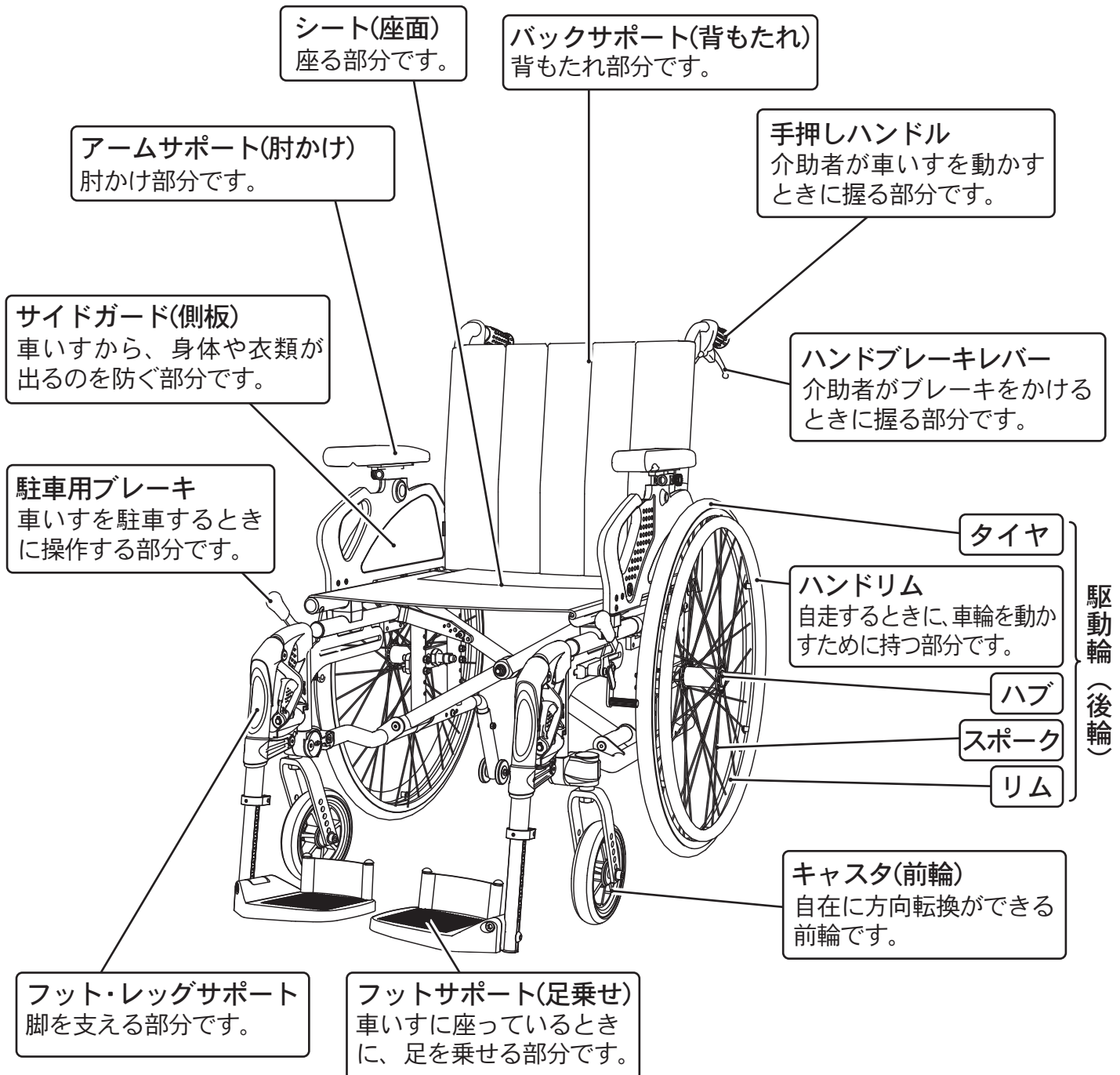
ご使用者自身で自走および駐車用ブレーキの操作が可能であっても、ご使用の際の住宅環境や交通環境などにより、介助者のサポートが必要な場合もあります。ご使用に際しては安全のため、かならずご家族または介助者の付き添いのもとにご使用ください。

車いすの各部調整について

車いすの各部を調整する際は、取扱説明書に記載されている調整方法を十分に理解したうえでおこなってください。また、ご使用者の障害の種類や程度によって、単独での使用が困難な場合もありますので、調整方法をふくめ、理学・作業療法士などの専門家にご相談のうえ安全に使用してください。

www.handicare.com

各部の名称

この取扱説明書を正しく理解していただくためには、車いすの主要部品のなまえをご理解いただくことが重要です。以下の図をごらんになり、それぞれに対応する部分を実際の車いすでご確認ください。この取扱説明書は、EXIGO20（エクシーゴ）以外の機種に対応する記載内容もあります。お買い求めいただきました車いすと内容が異なる場合もありますのでご了承ください。

製品仕様

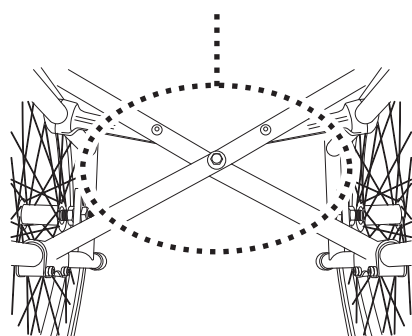
シート（座面）寸法	幅	36・39・42・45・48・51cm の6種類 ＊お買い上げの車いすのシート（座面）幅は、シート（座面）下部フレームのラベルをご確認ください。（下記「ラベル表記」参照）
	奥行	39〜44cm
	高さ	前部：42cm　　後部：41cm
組み立て寸法	全幅	シート（座面）幅＋21.5cm
	全長	97cm
	全高	82〜95cm
折りたたみ寸法		幅30×奥行81×高さ82cm
バックサポート(背もたれ)高さ		42cm
アームサポート(肘かけ)高さ		21.5〜26.5cm
製品重量		18kg
最大使用者体重		100kg（積載物も含む）

※寸法には ±10mm程度の差があります
※お買い上げの車いすのシート（座面）幅は、シート（座面）下部フレームのラベルをご確認ください。
※モジュールタイプの車いすのため、一部寸法が変動します。

ラベル表記

※ラベルの仕様は実際のものとは異なる場合があります。

※座面下部

製品名

登坂角度

固定ポイント

廃棄について

車いすおよび車いすの梱包材および部品は、通常の廃棄物として処理することができます。車いすの主要材質は再溶解可能なアルミニウムです。梱包に使用している段ボール、ビニール材も全てリサイクルできます。

各部の点検方法

安全のために、車いすを使用する前にはかならず各部を点検してください。異常が見つかった場合は、すぐに使用を中止し、ご購入販売店または弊社カスタマーサポートへ連絡してください。

1. **各部の留め金具(ネジ・ナットなど)を確認してください。**
   ネジがゆるんでいるところ、脱落しているところはありませんか？
2. **ブレーキを確認してください。**
   ハンドブレーキ、駐車用ブレーキをかけたときには、駆動輪（後輪）の回転がしっかり止まりますか？解除の際は駆動輪（後輪）がスムーズに回転しますか？
   各ブレーキ本体にガタつきはありませんか？
3. **車輪を確認してください。**
   ガタつきはありませんか？リムに振れ・変形がなく、スポークに曲がりや折れはありませんか？
4. **タイヤを確認してください。**
   亀裂や穴・傷はありませんか？また表面の溝は十分残っていますか？
   タイヤは、表面の溝が無くなる前に交換してください。
5. **シート（座面）を確認してください。**
   シート（座面）に傷やたるみはありませんか？
6. **アームサポート（肘かけ）を確認してください。**
   ガタつきがなく、車体にしっかりと固定されていますか？
7. **フットサポート（足乗せ）を確認してください。**
   フットサポート(足乗せ)は、ガタつきがなく、車体にしっかりと固定されていますか？
8. **ワンタッチ駆動輪（後輪）着脱機能（クイックリリース）が正しく機能するかを確認してください。**
   車軸中心部に内蔵されているベアリングが破損していないか、装着後に正しく固定されるかを確認してください。
9. **車いす全体を確認してください。**
   車輪は４つとも接地していますか？
   全体にガタつきはありませんか？きちんと折りたためますか？
   平らな場所で、左右均等な力で前へ押したあと、まっすぐに進みますか？
   ブレーキワイヤーは部品等に引っかかっていませんか？また、切れていませんか？
   異音はしませんか？

●車いすを長くお使いいただくためには、定期的に販売店の点検を受けられることをおすすめいたします。
●ハンドブレーキワイヤーは、1年に1度交換して下さい。

ご使用上の注意

車いすを安全に使用していただくために重要な内容です。よくお読みになり、
内容をかならず守って正しく取り扱ってください。

表示マークの説明		
	⚠警告	内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。
	⚠注意	内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があることを示します。
	🛇	してはいけない「禁止」内容であることを示します。
	❗	必ずしていただく「強制」内容であることを示します。

ご使用の際は

⚠警告 内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

加工・改造は絶対にしないでください。
故障や事故の原因となるおそれがあり大変危険です。

分解・修理はサービス員以外行わないでください。

この車いすは１人用です。絶対に２人以上で乗らないでください。
介助者であっても、一緒に乗らないでください。転倒、破損のおそれがあります。

手押しハンドルに寄りかからないでください。
バランスを崩し、転倒するおそれがあります。

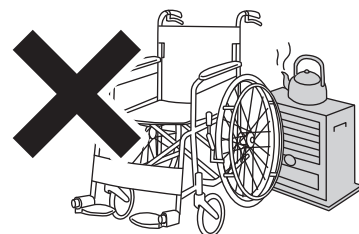
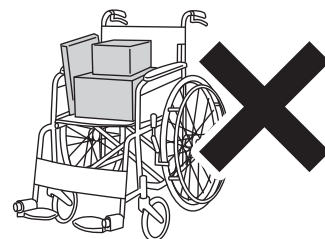
シート（座面）以外の部分に座ったり、シート（座面）に立ち上がったりしないでください。
転倒、破損のおそれがあります。

車いす以外の用途に使用しないでください。
歩行補助車として使用したり、台車として物品運搬などに使用したりしないでください。

車いすを火気に近づけたり、高温になる場所に放置しないでください。
変形・火災のおそれがあります。

車いすの各部の調整後に車いすを使用する際は、調整された各部のネジ・ボルトがしっかりと締めつけられているかを確認してください。
各部の調整を行った場合、車いすの走行性能、バランスに影響を及ぼすこともあります。

部品の破損など異常が見つかった場合は、すぐに使用を中止し、ご購入販売店または総販売元カスタマーサポートへ連絡してください。

⚠ 警告

内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

車いすの各部が確実に組み立てられていることを確認してください。

ハンドブレーキ、駐車用ブレーキの効き具合をかならず確認してください。
強すぎる、または弱すぎる場合はすぐにご購入販売店もしくは総販売元カスタマーサポートへ連絡してください。

最大使用者体重（積載物も含む）をかならず守ってください。

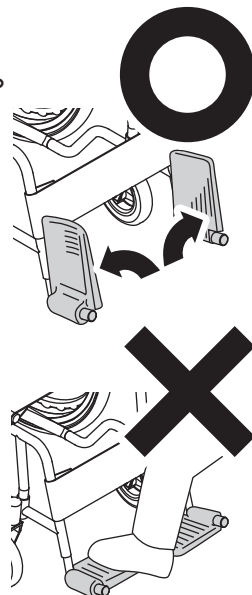
車いすに乗り降りするとき、一時停止するときは、

①平らな場所でかならず左右の駐車用ブレーキをかけ、左右の駆動輪（後輪）が固定されていることを確認してください。

②必ずフットサポート（足乗せ）をあげてから乗り降りしてください。
フットサポート（足乗せ）の上に立つと、車いすごと転倒するおそれがあり大変危険です。

③車いすが不安定になりやすいので、かならず２名以上の介助者が付いてください。

立ち座りは、ゆっくりと行ってください。
勢いよく立ち上がったり座ったりすると、バランスを崩して転倒するおそれがあります。

⚠ 注意

内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があることを示します。

手押しハンドルや、駐車用ブレーキなどの操作レバーに重い荷物を吊りさげないでください。
転倒したり、部品が変形・破損するおそれがあります。

アームサポート（肘かけ）に腕を乗せたまま、跳ねあげないでください。

子供に使用させたり、遊ばせたりしないでください。

車いすを放り投げたり、高い場所から落すなどして衝撃を与えないでください。

炎天下の屋外で、長時間車いすを放置しないでください。
フレームが高温となりヤケドを負うおそれがあります。

ご使用前には、毎回かならず各部を点検してください。
異常が見つかった場合は、すぐに使用を中止し、ご購入販売店または総販売元カスタマーサポートへ連絡してください。

注意 内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があることを示します。

車いすを使用中は、安定した姿勢を保ってください。
シート（座面）の中央に深く腰かけてください。

車いすにバリなどがないか確認してください。
衝突などにより、車体にバリやキズが発生することがあります。ケガをすることがありますので注意してください。

車いすに長時間座っていると床ずれになる危険性が高まります。床ずれになる危険性が高い場合は、除圧分散性の高いクッションを使用してください。

この車いすを使用するときは、転倒防止器もあわせてお使いください。

認知症の方が使用される場合は、かならず介助者が付き添ってください。
予測できない行動で危険を招くことがありますので十分注意してください。

駐車用ブレーキはかならず手で操作してください。また、作動方向以外に力を加えないでください。
部品が変形したり破損するおそれがあります。

走行中は

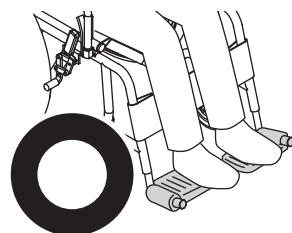
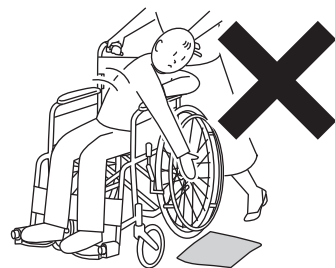
警告 内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

身体が前のめりにならないように注意してください。
段差や凹凸のある路面を走行する際は特に注意してください。

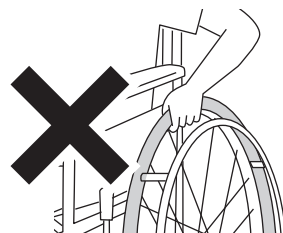
走行中に身体を乗り出さないでください。
また、身体を大きく前傾させないでください。
バランスを崩して車いすが転倒するおそれがあり、大変危険です。

道路を通行する際は、かならず右側を通行してください。歩道があるところでは歩道を通行してください。
かならず道路交通法規を守ってください。道路交通法規を守らず使用すると、交通事故の原因となったり、本製品の保証範囲外となる場合があります。

走行中はかならず足をフットサポート（足乗せ）の上に乗せてください。
足を地面につけたりフットサポート（足乗せ）から外すと、フットサポート（足乗せ）と地面の間に足が巻き込まれて、ケガをすることがあり危険です。搭乗者が靴をはいていない場合は、壁などに当たらないよう十分に注意してください。

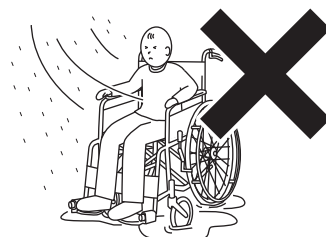
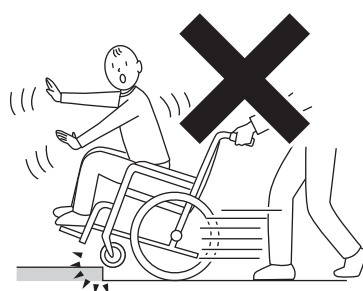
坂道では、十分に注意して走行してください。
車いすが予想外の方向へ進む、また身体が不安定になるなど、大変危険です。

⚠注意 内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があることを示します。

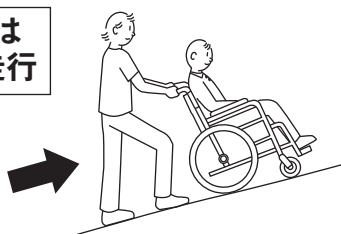
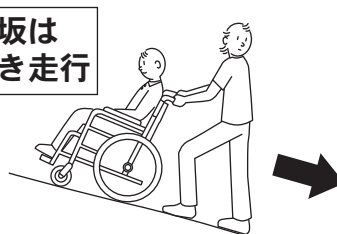
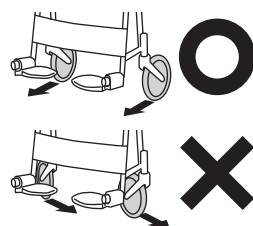
タイヤを持って車輪を操作したり、回転している車輪に指などを入れないでください。
ケガをするおそれがあり大変危険です。

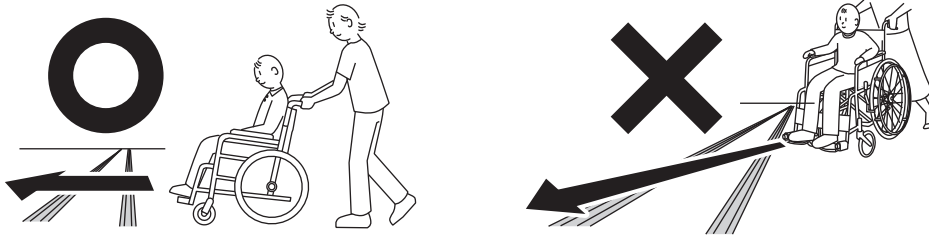
片手のみで操作しないでください。
バランスを崩すことがあり危険です。

こんな時、こんな場所では

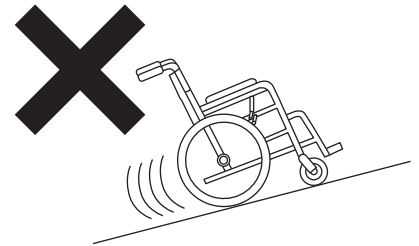
⚠警告 内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

段差を無理に乗り越えようとしないでください。また、絶対に勢いをつけて乗り越えないでください。

以下のような場所、状況では使用しないでください。
- 崖の近くや河川の堤防、防波堤、フタのない側溝付近など転落の恐れがある所
- 砂利道、ぬかるみなど走行が困難な所
- 雨・雪・凍結などで滑りやすい所
- 夜間、濃霧、強風などで見通しが悪い場合
- その他危険が予想される場合

車いすで急な坂道の上り下りをするときは、かならず介助者が支えてください。
坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。下り坂を前向きで下ると、搭乗者が前へずり落ちたり、スピードが出やすいなど、非常に危険です。また、介助者がバランスを失うおそれがあります。

上り坂は前向き走行

下り坂は後ろ向き走行

発進するときや、段差を乗り越えるときには、キャスタ（前輪）のタイヤがまっすぐになっていることを確認してから走行してください。
キャスタ（ 前輪 ）が斜めになった状態で発進したり、段差に斜めに進入すると、段差を乗り越えられなかったり、キャスタ（ 前輪 ）が破損して事故の原因となるおそれがあります。

警告
内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

踏切を渡る、溝を越える、エレベータの乗り降りなどの際は車輪が溝に対して直角になるように走行してください。
斜めの角度で進入すると、車輪が溝にはまって大変危険です。またかならず介助者と一緒に走行してください。

以下のような場所、状況では十分に注意して走行してください。
・坂道や踏切、溝や段差、地面に凹凸のある所
・車いす対応の乗り物やエレベータの乗り降り
・交通量の多い所、混雑している所や狭い道
・その他危険が予想される場合

坂道では駐車しないでください。
ブレーキをかけていても車いすが動く場合があり、大変危険です。

車いすからの移乗の際は、かならず介助者のサポートを受けてください。

自動車で移動する場合、助手席部には車いすを固定しないでください。福祉車両等の後部スペースで、しっかりと車いすを固定してください。

注意
内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があることを示します。

以下のような場所には放置しないでください。
・坂道、車道に近い所、人通りのある所
・段差や凹凸のある路面
・非常口、消火器、消火栓のそば
・直射日光のあたる所、火気などで高温になる所、湿気の多い所
・風雨のあたる所、潮風のあたる所、暑い日や寒い日の屋外
・ほこりの多い所
・子供がいたずらをするおそれのある所

介助者の方へ

警告 内容を守らず誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

車いすの操作方法をよく理解し、取扱いに十分慣れた状態で介助をしてください。

注意 内容を守らず誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害が発生する可能性があることを示します。

車いすに乗って介助しないでください。

ご使用前には、毎回かならず各部を点検してください。
異常が見つかった場合はすぐに使用を中止し、ご購入販売店または総販売元カスタマーサポートへ連絡してください。

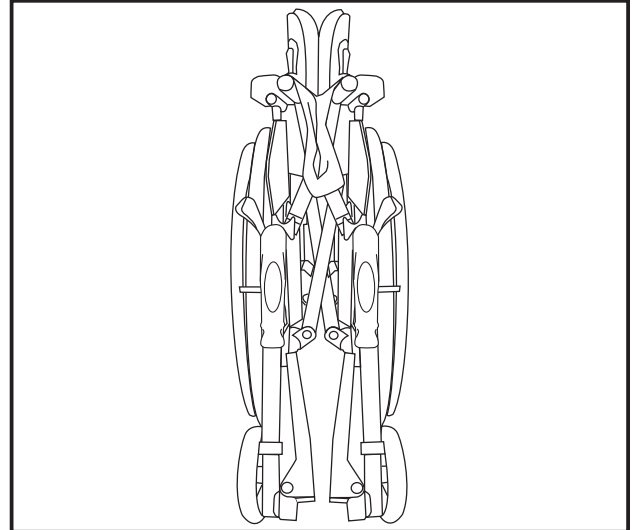
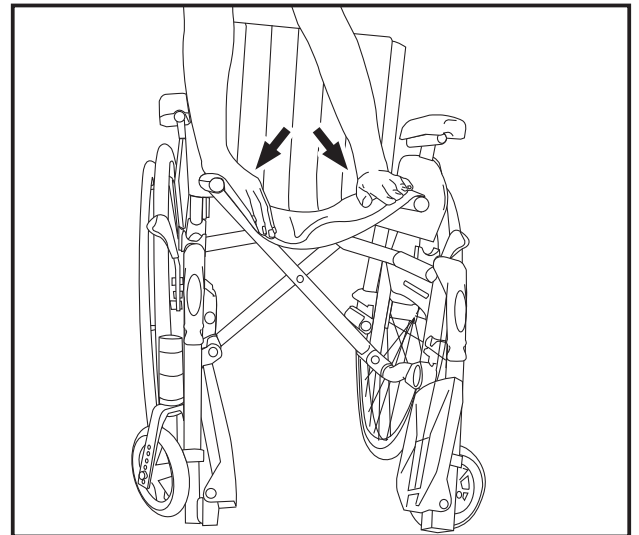
以下のような場所、状況では必ず介助者が付き添ってください。
- 急な坂道
- 地面に段差や凹凸のある所
- 踏切の横断、車いす対応の乗り物やエレベータの乗り降り、溝のある場所
- その他危険が予想される場合

使用中は常に、搭乗者の姿勢や状態に注意を払ってください。
- 身体の一部や衣類が、タイヤ・スポーク・キャスタなどにはさまらないように、また地面・ 建物・通行者などに触れないように注意してください。
- 搭乗者が安定した姿勢を保っていることを確認してください。

組み立て方・折りたたみ方

組み立て方

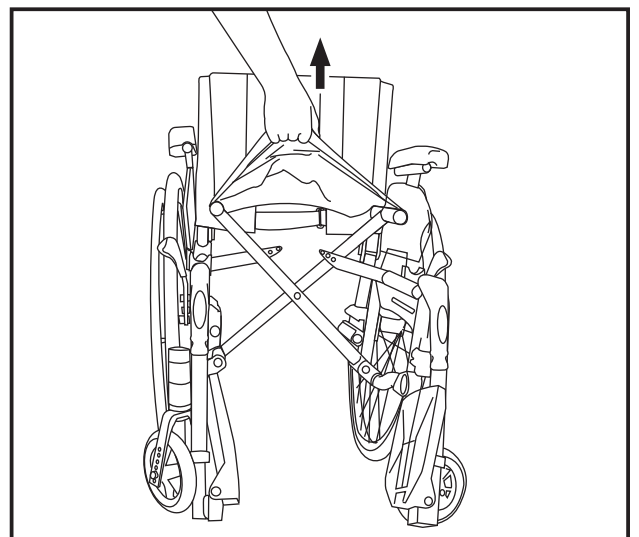
車いすは完成した状態でお届けします。開封後の作業は、車いすを広げるだけです。

※仕様によっては、左右のフット・レッグサポートを取りつける必要があります。

左右の手の平で、図のようにシート（座面）両端のパイプを押し広げてください。その後、クッションをシート（座面）にのせてください。

注意

- シート（座面）両端のパイプはかならず手の平で押し広げてください。指で押すとはさんでケガをするおそれがあります。
- パイプがパイプ受けに入っていることを確認してください。

折りたたみ方

ご使用にならないとき、また乗用車のトランクに収納する場合は、車いすを折りたたむことができます。

クッションをはずし、図のようにシート（座面）の中央部をまっすぐ上へ引きあげてください。フット・レッグサポートを取りはずすと、さらに小さくなります。

駆動輪(後輪)の付け方・はずし方

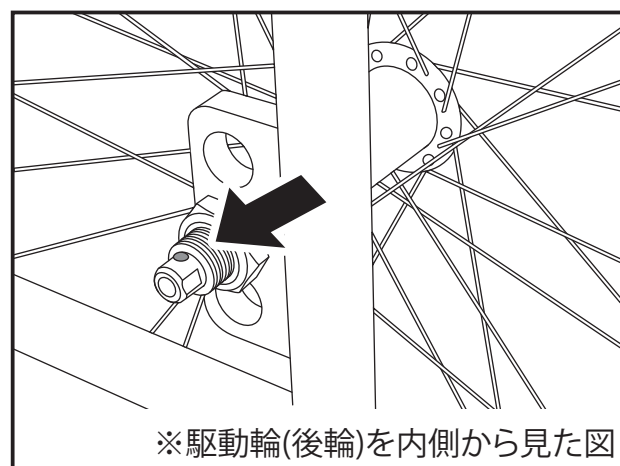
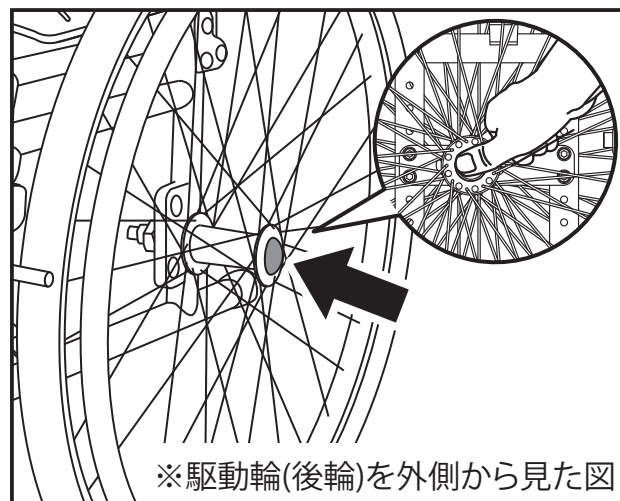
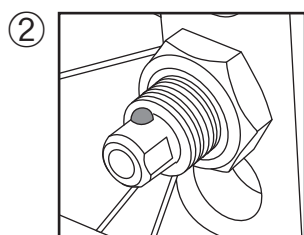
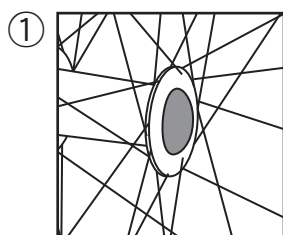
この車いすは、駆動輪（後輪）外側の車軸中央部を指などで押しながら手前に引き抜くと、ワンタッチで駆動輪（後輪）を取りはずすことができます。取り付けるときも同様にしてさし込んでください。

駆動輪（後輪）を取り付けたあとは以下のことをかならず確認してください。

①駆動輪（後輪）外側の車軸中央部が約 5mm 程度飛び出していること

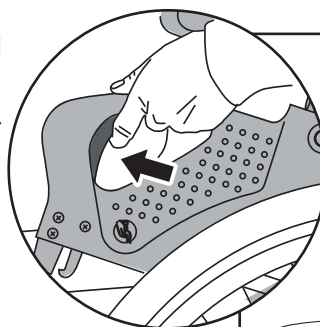
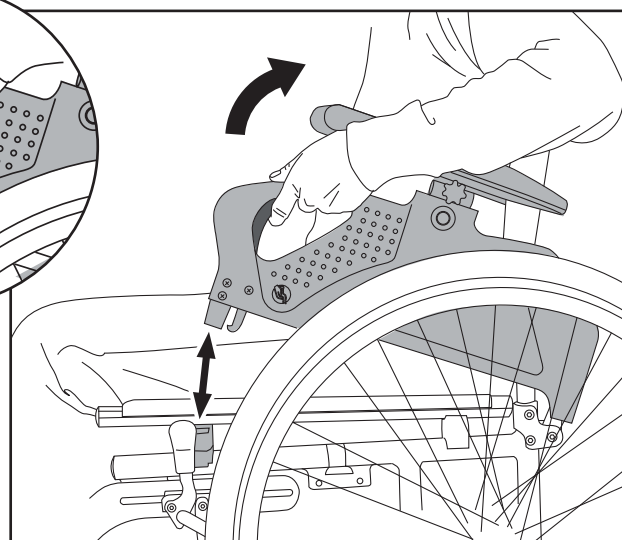
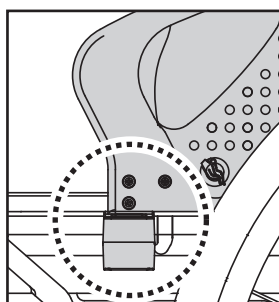
②駆動輪（後輪）内側の車軸ベアリングが飛び出していること

①
②
※駆動輪(後輪)を外側から見た図

※駆動輪(後輪)を内側から見た図

⚠警告

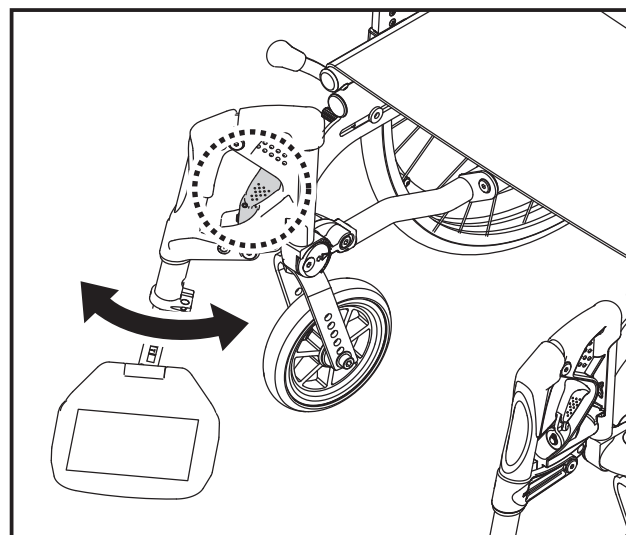
● 駆動輪（後輪）が確実に取り付けられていることをかならず確認してください。確実に取り付けられていないと走行時にはずれて、重大な事故を引き起こすおそれがあります。

アームサポート(肘かけ)の跳ねあげ方

サイドガード（側板）の図の部分を押しながら、アームサポート（肘かけ）を後方へ回転させるようにしてあげてください。

アームサポート（肘かけ）をおろしたあとは、かならず確実に固定されていることを確認してください。

フット・レッグサポートの使用方法

車いすからベッドなどへの移乗時には、フット・レッグサポートを外側または内側へ向けることができます。足元スペースを最大限に確保したい場合は、フット・レッグサポートを取りはずすこともできます。

フット・レッグサポートの動かし方

図のレバーを外側または内側へ倒しながら、フット・レッグサポートを回転させてください。

フット・レッグサポートの取りはずし方

レバーを外側または内側へ倒しながらフット・レッグサポートを外側へ回転させ、まっすぐ上へ引きあげてください。

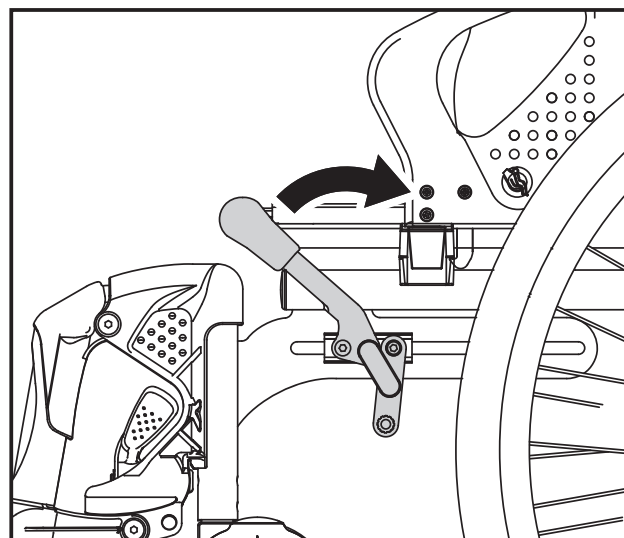
注意

- フット・レッグサポートを元に戻したあとは、フット・レッグサポートが正面を向き、確実に固定されていることを確認してください。

駐車用ブレーキの使用方法

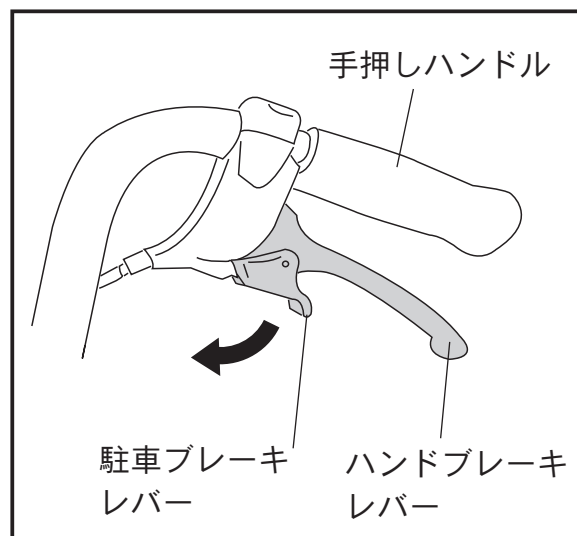
駐車用ブレーキを矢印の方向へ引くと駆動輪（後輪）が固定されます。反対方向へ押すと解除されます。

注意

- 車いすに乗り降りするとき、一時停止するときはかならず左右の駐車用ブレーキをかけてください。
- 走行中に駐車用ブレーキを操作しないでください。車いすから落ちたり、転倒するなどのおそれがあります。

ハンドブレーキレバーの使用方法

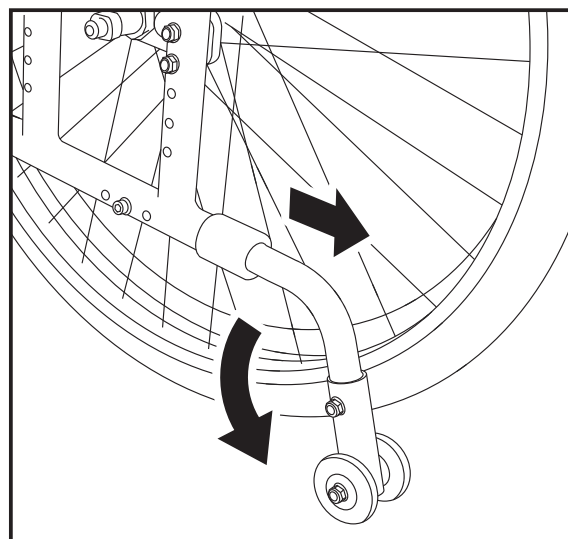
手押しハンドルと一緒にハンドブレーキレバーを握るとブレーキがかかります。指をはなすと解除されます。

駐車ブレーキレバーの使用方法

ハンドブレーキレバーを握った状態で駐車ブレーキレバーを矢印の方向にさげると、駆動輪 (後輪) が固定されて駐車ブレーキがかかります。

注意

- ブレーキの効き方が強すぎる、または弱すぎる場合はすぐに使用を中止し、ご購入販売店または総販売元カスタマーサポートへ連絡してください。
- ハンドブレーキは、介助者が必ず左右同時にかけてください。
- ハンドブレーキワイヤーは、1 年に 1 度交換してください。

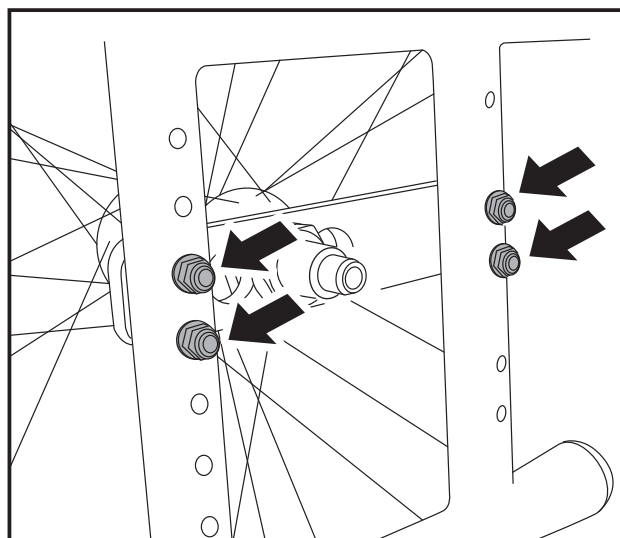
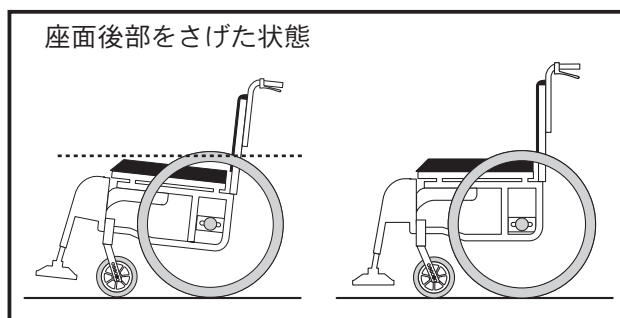
転倒防止器の使用方法

転倒防止器を使用するときは、引きながら下へ回転させてください。転倒防止器の先端から床までの距離は 2.5cm 以下に調整してください。
使用しないときは、引きながら上へ回転させてください。

シート(座面)後部高さの調節方法

駆動輪（ 後輪 ）取り付け位置を上下させることで、シート（ 座面 ）後部の高さを変更することができます。駆動輪（後輪）取り付け位置をあげるとシート(座面）後部はさがり、駆動輪（ 後輪 ）取り付け位置をさげるとシート（座面）後部はあがります。

1 図の4箇所のナットをゆるめて取りはずします。

2 シート（座面）後部をさげる場合
　→駆動輪（後輪）取り付け位置をあげる
シート（座面）後部をあげる場合
　→駆動輪（後輪）取り付け位置をさげる

3 図のナットをしめて、駆動輪（後輪）を確実に固定してください。

⚠注意

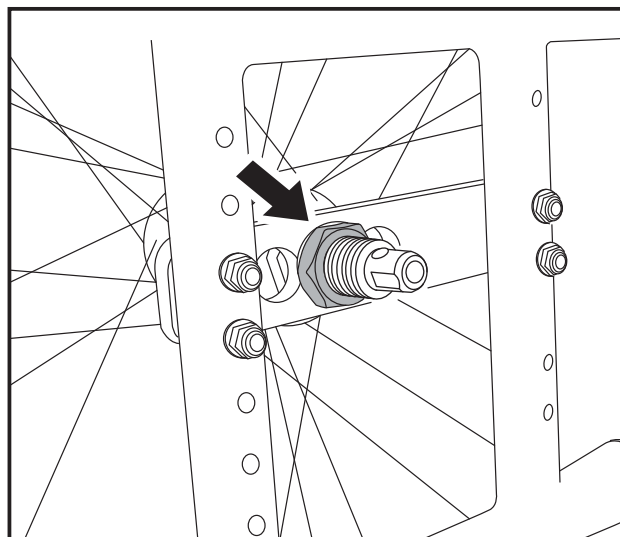
● 駆動輪（後輪）の取り付け位置を変更したあとは、かならず駆動輪（後輪）が確実に固定されていることを確認してください。

重心の変更

駆動輪（ 後輪 ）取り付け位置を前後させることで、車体の重心を変更することができます。

1 図のナットをゆるめて取りはずします。

2 車軸の取り付け位置を変更します。

3 ナットをしめて、車軸を確実に固定してください。

⚠注意

● 車軸の取り付け位置を変更したあとは、かならず車軸が確実に固定されていることを確認してください。

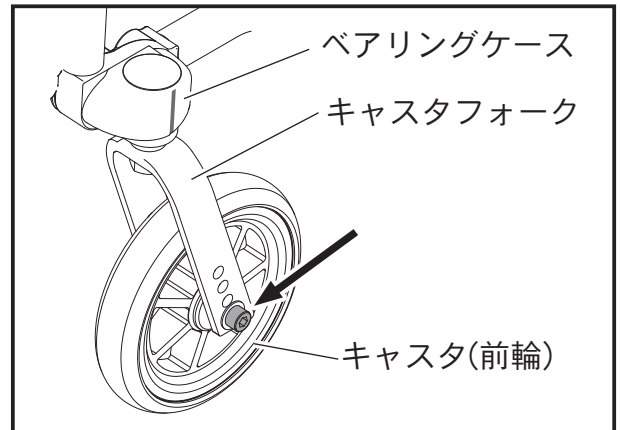
キャスタ(前輪) 高さの調節方法

1 矢印のボルトをゆるめて取りはずします。

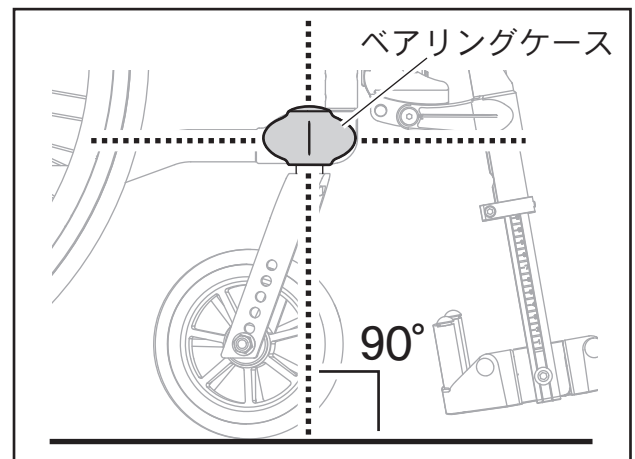
2 シート（座面）前部をあげる場合
→キャスタ（前輪）の取り付け位置をさげる
シート（座面）前部をさげる場合
→キャスタ（前輪）キャスタの取り付け位置をあげる

3 ボルトをしめて、キャスタ（前輪）を確実に固定してください。

⚠注意

● キャスタ（ 前輪 ）の高さを変更するときは、キャスタ（前輪）の適正角度の確認もかならずおこなってください。またその際はかならずブレーキも調節してください。

キャスタ(前輪)の適正角度の確認方法

キャスタ（前輪）の角度が適切かどうかを確認してください。
①ベアリングケースと床が平行である
②ベアリングケース側面のラインが床に対して
垂直である（右図参照）

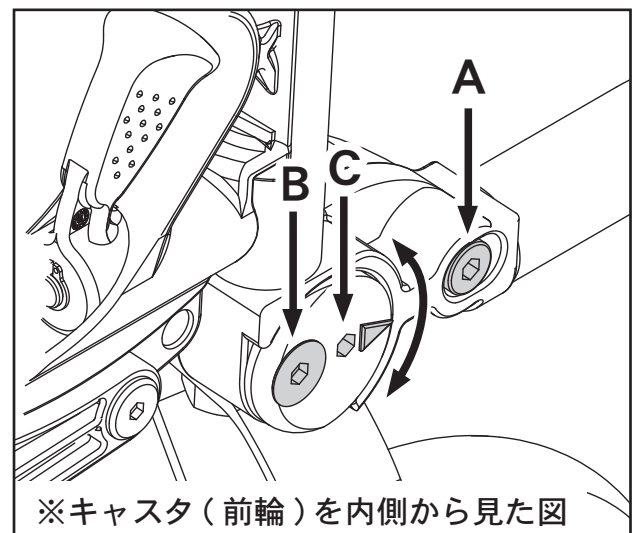
ベアリングケース
90°

角度調節方法

1 Aのボルトを少しゆるめます。

2 Bのボルトをゆるめます。

3 Cに六角レンチをさし込み、角度を調節します。

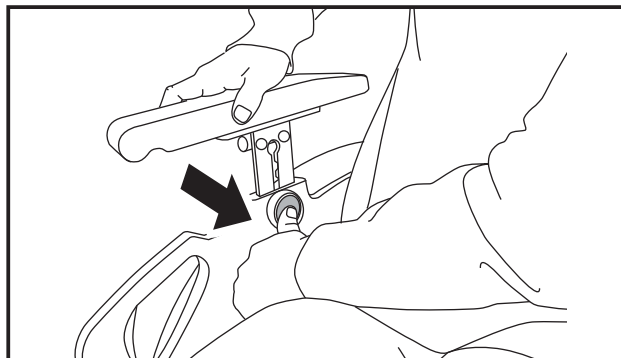
4 Bのボルトをしめます。その際、緩み止め剤の使用をおすすめします。

5 Aのボルトをしっかりとしめ、キャスタ（前輪）が確実に固定されたことを確認してください。

※キャスタ（前輪）を内側から見た図

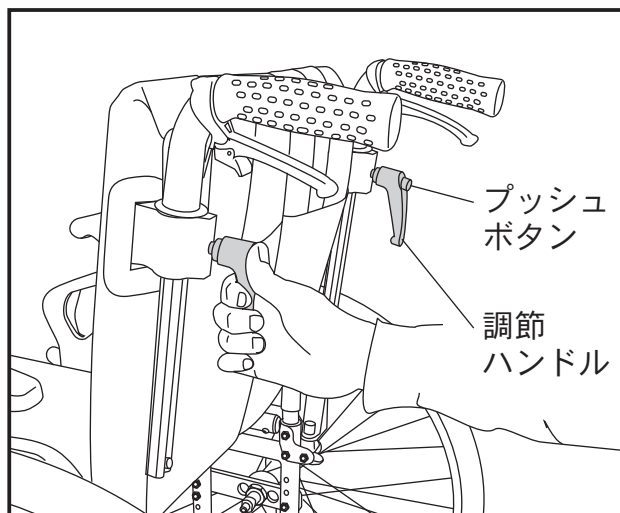
アームサポート(肘かけ) 高さの調節方法

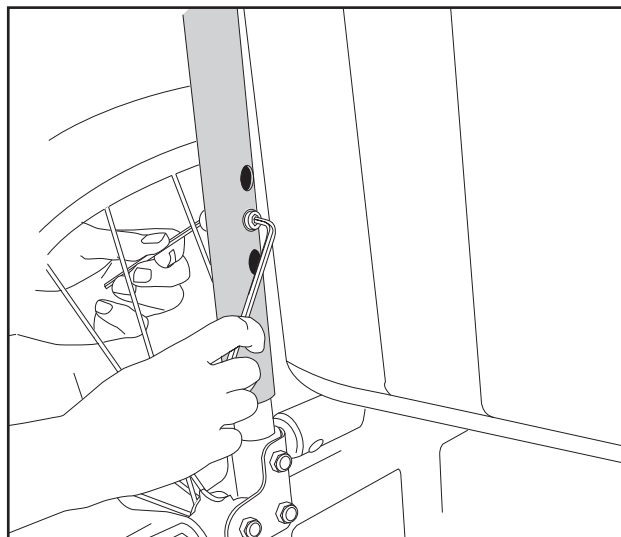
矢印のボタンを押しながら、アームサポート(肘かけ)を上下させてください。その後、アームサポート(肘かけ)が確実に固定されていることを確認してください。

⚠注意

● 指などをはさまないように注意してください。

手押しハンドル高さの調節方法

図の調節ハンドルを回してゆるめると、手押しハンドルの高さを調節することができます。その後、調節ハンドルを回してしっかりとしめ、手押しハンドルが確実に固定されたことを確認してください。

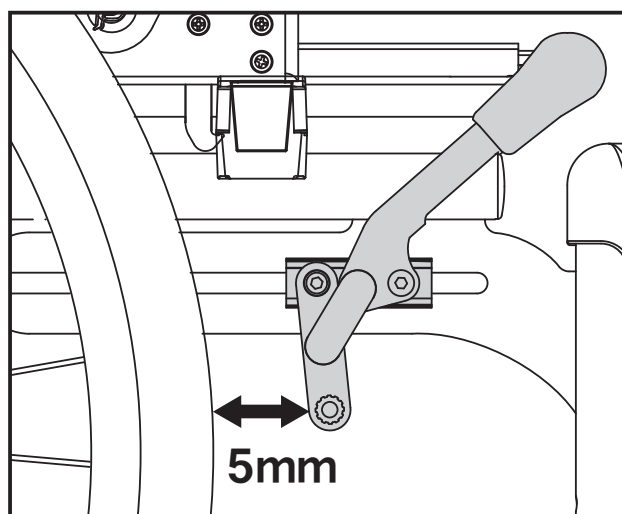
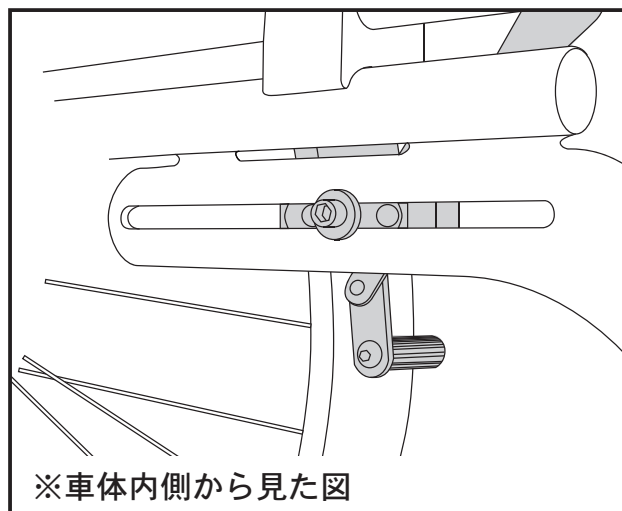
※ 調節ハンドルを回したとき、ハンドブレーキレバーなどに干渉する場合は、プッシュボタンを押しながら反対方向へ少し回し、プッシュボタンをはなしてから再度、調節したい方向へ回してください。

バックサポート(背もたれ) 高さの調節方法

図のボルトをはずし、バックサポート(背もたれ)パイプを上下させ、高さを調節してください。
その後、ボルトをしめてバックサポート(背もたれ)を固定してください。その際、緩み止め剤の使用をおすすめします。最後に、バックサポート(背もたれ)が確実に固定されていることを確認してください。

駐車用ブレーキ位置の調節方法

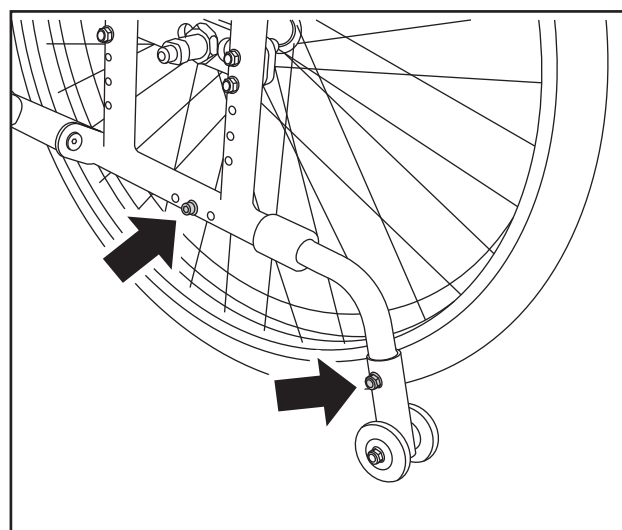
1 矢印のネジをゆるめ、駐車用ブレーキをスライドさせて位置を調節してください。タイヤとブレーキ間の距離が約 5mm となる位置が適正位置です。

2 ネジをしっかりとしめ、駐車用ブレーキ本体が確実に固定されたことを確認してください。

※基本的には、工場出荷時の設定（5mm）をさらに調節する必要はありません。

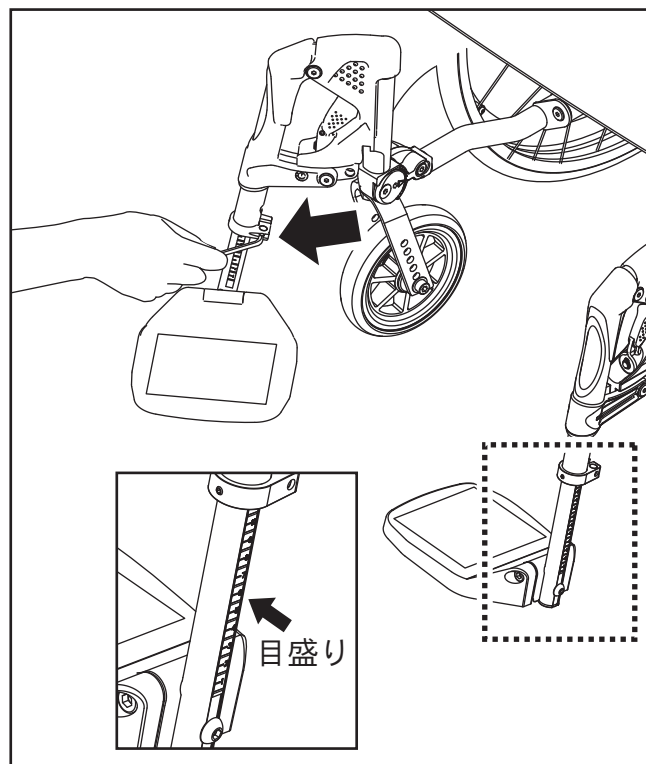
※車体内側から見た図

転倒防止器の調節方法

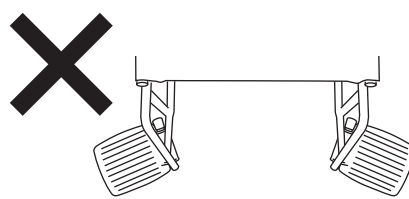
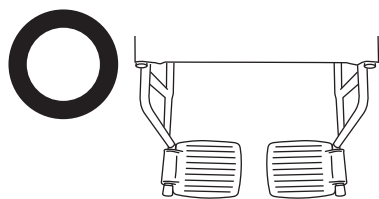
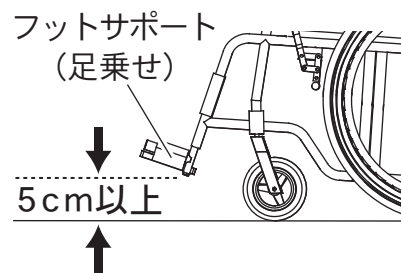
1 図の 2 箇所のネジをゆるめ、パイプの長さを調節してください。転倒防止器の先端から床までの距離は 2.5cm 以下に調整してください。

2 ネジをしっかりとしめ、パイプが確実に固定されたことを確認してください。

フットサポート(足乗せ) 高さの調節方法

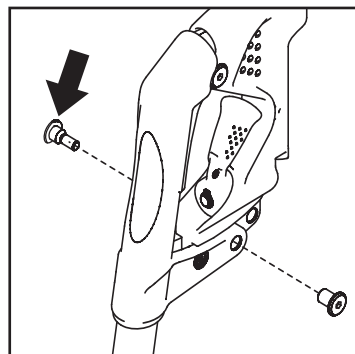
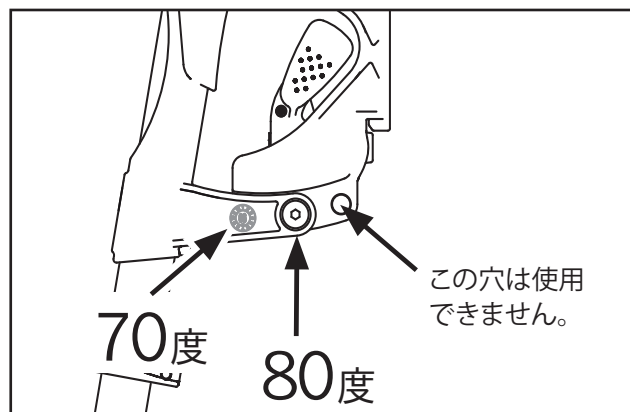
1 矢印のネジをゆるめ、フットサポート (足乗せ) を上下させて高さを調節してください。

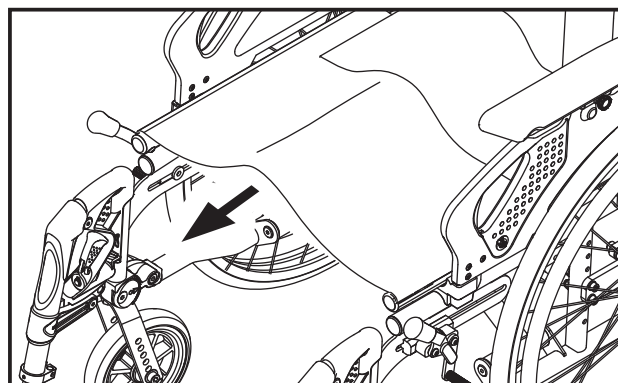
2 ネジをしっかりとしめ、フットサポート (足乗せ) が確実に固定されたことを確認してください。

※フットサポート (足乗せ) のパイプには目盛りが付いています。高さ調節の目安としてお使いください。

⚠警告

●フットサポート (足乗せ) は正しい位置で使用してください。外側へ向けるなど間違った位置で使用すると、走行中にキャスタ（前輪）や周囲の物に干渉し、転倒するなどのおそれがあります。

●フットサポート (足乗せ) の高さは、地面より５ｃｍ以上で使用してください。低すぎると凹凸のある路面や障害物にフットサポート (足乗せ) が当たり、転倒するおそれがあります。

フット・レッグサポート角度の調節方法

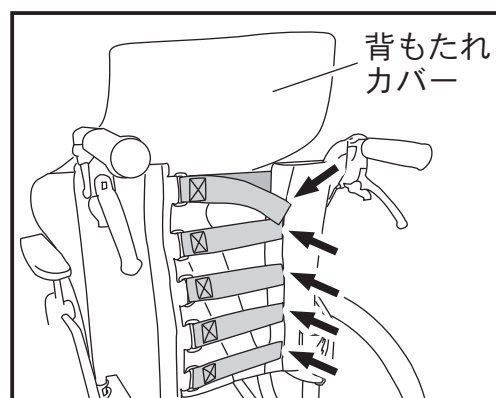
フット・レッグサポートの角度を、70 度、80 度の 2 通りに調節できます。出荷時は 80 度に設定しています。

1 矢印のネジをゆるめてください。

2 好みの角度に応じてネジ穴の位置を変更し、ネジを確実にしめてください。
その後、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

シート(座面) 奥行きの調節方法

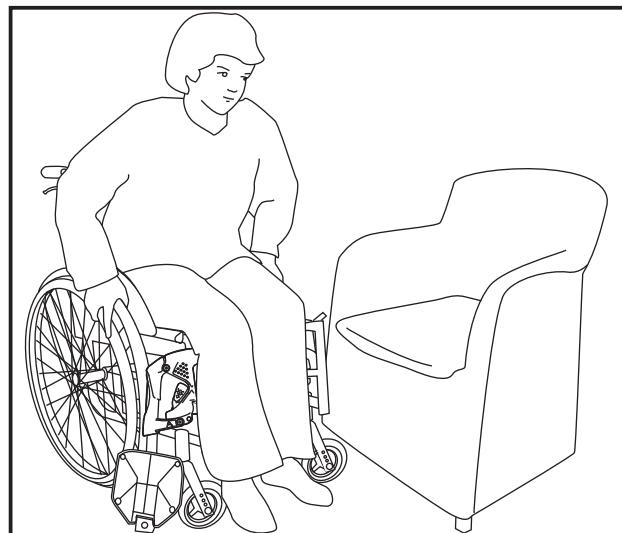
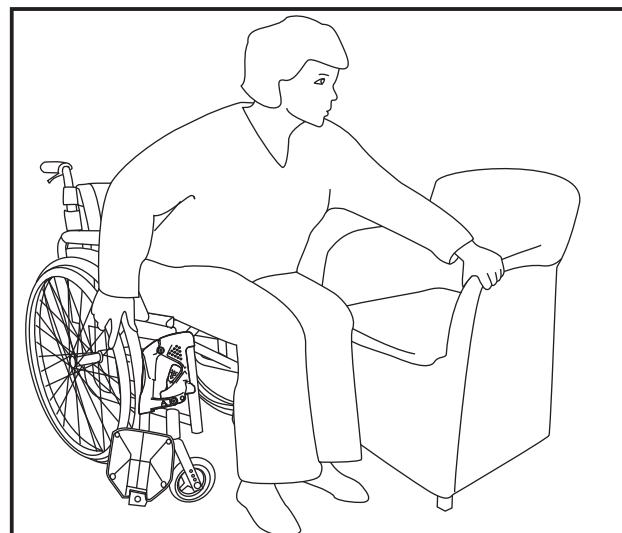
本体を軽く折りたたんでシート (座面) をたるませた状態にしてから、シート (座面) を矢印の方向に引っぱってください。
シート (座面) は前方に最大 5 cm 伸びます。
(３９～４４cm)

バックサポート(背もたれ)の調節方法

車いす背面のベルトで、バックサポート (背もたれ) の張り具合を調節することができます。

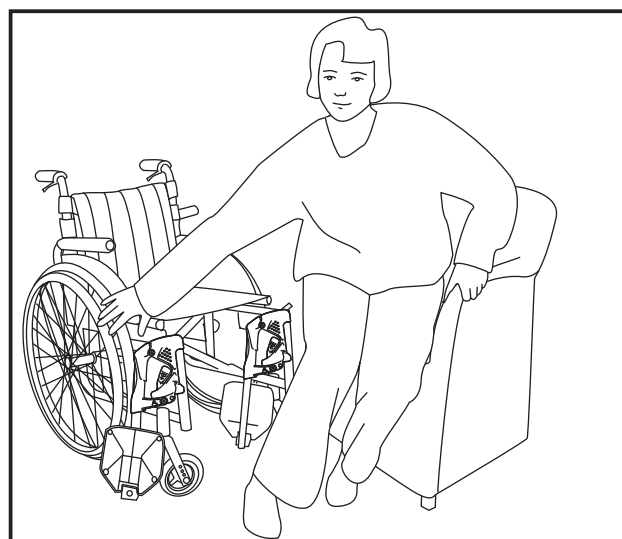
1 背もたれカバーをはずし、矢印のベルト (5 箇所) の面ファスナーをはずしてベルトの長さを調節してください。

2 全てのベルトが面ファスナーで確実に固定されていることを確認し、背もたれカバーを戻してください。

車いすの操作方法

車いすからの移乗

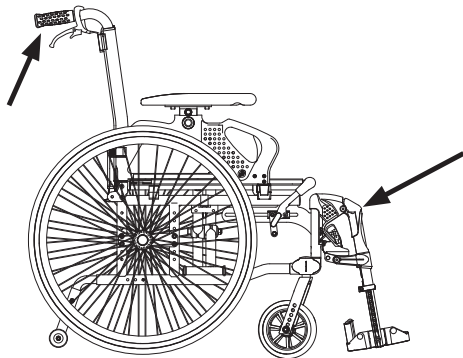
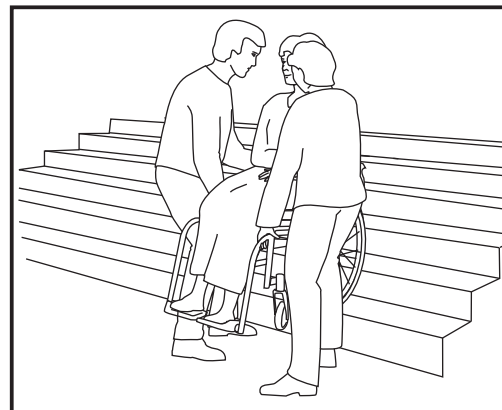
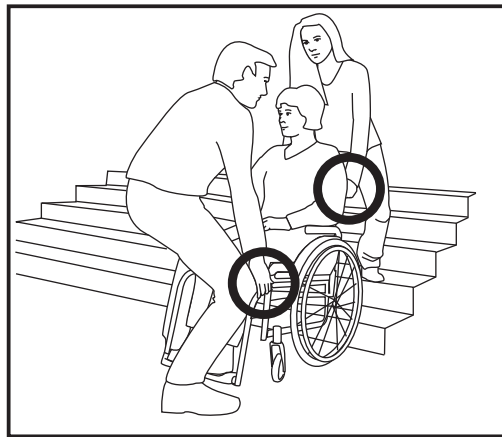
1 かならず左右とも駐車用ブレーキをかけてください。必要に応じてフット・レッグサポートを外側へ回転させてください。

2 移乗対象物（イスやベッドなど）にできるだけ近づいてください。

3 ゆっくりと慎重に対象物へ移乗してください。

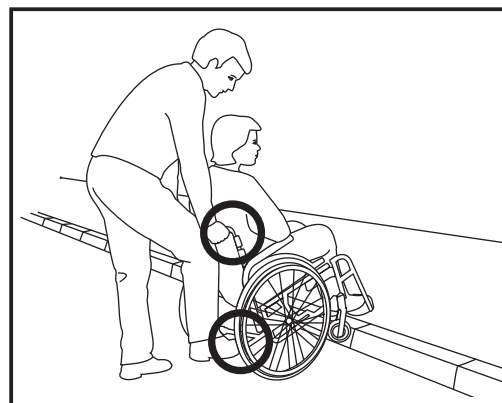
⚠注意

● この車いすを使用して移乗する場合は、移乗知識のある理学・作業療法士などのアドバイスを得てから行ってください。移乗対象物との距離、使用環境、介助者の有無などで、移乗のしかたは変わります。

段差移動

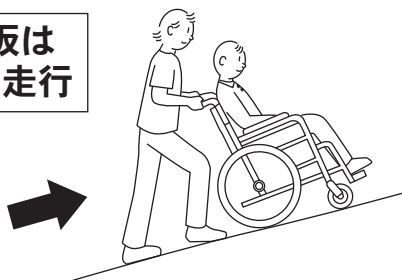
階段等の段差で、搭乗者が車いすに乗ったまま移動する場合は、安全のためかならず下記矢印の箇所を持ってください。

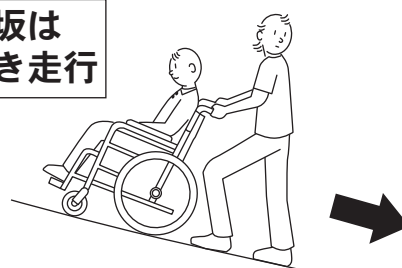
注意

● 矢印以外の箇所は持たないでください。

介助者は、図のように車いすをはさんで両側に立ち、矢印の箇所をしっかりと持って移動してください。

段差乗り越え

小さい段差であれば、図のように駆動輪 (後輪) 内側のパイプを踏みこんで支点にしながら、同時に手押しハンドルを手前へ引くようにしてキャスタ (前輪) を持ちあげます。

急こう配での走行

車いすで急な坂道の上り下りをするときは、かならず介助者が支えてください。坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。

上り坂は前向き走行

介助者は、身体を少し前へ倒しながら、押し戻されないように進んでください。

下り坂は後ろ向き走行

介助者は（ハンドブレーキ付きの車いすの場合はハンドブレーキを使いながら）後ろ向きにゆっくりと進んでください。

福祉車両での使用方法

EXIGO20（エクシーゴ）を乗客席として車内で使用する場合

福祉車両で利用者を移送する場合に最も安全なのは、車いすから一般座席に移り、自動車メーカーの安全ベルトでしっかりと固定することです。但し、一般座席には座ることができない場合であっても、当該製品は乗客席として車内で使用することができ、ＩＳＯ7176－19（衝撃吸収）の認証を受けております。車いすを乗客席として使用する際には、かならず車いすを自動車の進行方向に向けて配置してください。車いすを車内で安全に固定するため、以下の固定装置を推奨します。

●Unwin WWR/ATF/K/R

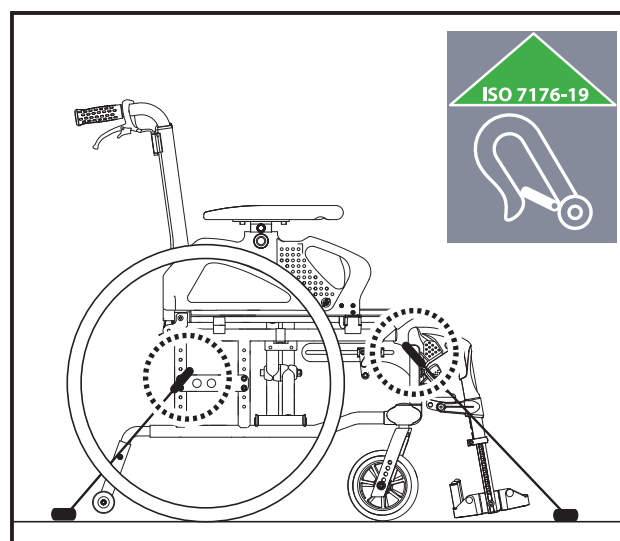
本装置は４点固定構造で、車いす本体と利用者がしっかりと車両本体に固定されます。尚、福祉車両によっては福祉車両床部に特殊なレールを設置する必要もあるので、自動車メーカー各社より、安全装置についてのアドバイスを受けてください。

EXIGO20（エクシーゴ）には、車いすを固定する際にポイントとなる４カ所に目印がついています。

●駆動輪（後輪）固定部の上
サイドフレームの後方チューブ部（左右）

●キャスタ（前輪）固定部の上
サイドフレームの前方チューブ部（左右）

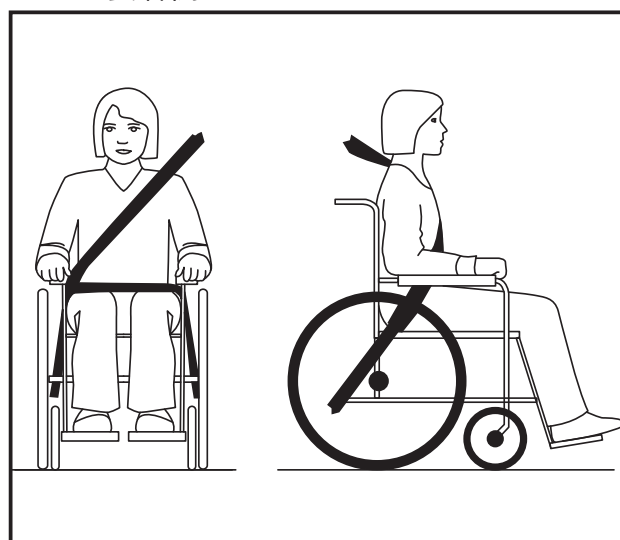
⚠注意

● Handicare は、EXIGO20（エクシーゴ）を乗客席として車内で使用する際に、上記とは異なる固定装置が使用された場合の責任は負いかねます。

シートベルトのしめ方

腹部ベルトはできるだけ急角度になるように（３０度から７５度）、肩と胸にかかるようにします。
シートベルトが身体に密着し、ねじれがないことを確認してください。

正しい装着例

⚠注意

● シートベルトが車いすの部品に接触して、ベルトと身体の間にすきまができないよう注意してください。
● 乗客席として車内で使用する際には、車いすが後に傾かないように注意してください。

● EXIGO20（エクシーゴ）は車内での使用がみとめられており、前方移動と正面衝突時の利用者に加わる衝撃加速度 20Gの I S O7176－19 条件を満たしています。
● 車いすを自動車の進行方向に向けて固定し、使用者を腹部ベルトおよび胸部ベルト（3 点式シートベルト）で固定した状態で安全テストを実施しています。

車内で安全にお使いいただくための注意

⚠警告 車内で安全にお使いいただくために以下の内容をかならず守ってください。内容を守らず誤った使い方をすると、重大な事故につながるおそれがあります。

● 車いすは自動車の進行方向に向けて配置し、固定装置メーカー、あるいは福祉車両メーカーの指示にしたがって固定してください。

● 車内では腹部ベルトと胸部ベルトの両方を使用してください。車の部品等への衝突による頭部や胸部のけがのリスクが軽減します。

● 車いすに付属しているテーブル（オプション部品）は、衝突時の安全を考慮して設計されたものではありません。使用者がけがをするリスクを軽減するために、車内では以下のように対処してください。
・取りはずして車内の別な場所に保管する。（その他の付属品も、できるかぎり車いす本体から取りはずし、輸送中は車内で保管してください。）
・テーブルと使用者との間にパッド（衝撃を吸収できるような材質のもの）等をはさむ。

● サポート装置や位置調整装置は、ISO7176-19-2008 の要件にしたがって公認ラベルが付されていないかぎり、安全装置、あるいはシートベルトとして使用することはできません。

● 何らかの衝突事故後に車いすの使用を再開する場合は、速やかにご購入販売店または弊社カスタマーサポートへ連絡のうえ、安全点検を受けてください。

お手入れ・保管方法

下記以外のお手入れについてのご相談は、ご購入販売店または総販売元カスタマーサポートへ連絡してください。

フレームの洗浄

- フレームは定期的に中性洗剤で洗浄してください。必要に応じて、高圧ジェットスプレーを使用して洗浄してください。（ボールベアリングに直接スプレーすることは避けてください。）
- 洗浄後、または雨天の使用後は、乾いた布などを使用して車いすをしっかりと拭いてください。
- 清拭をする場合は、水で薄めた中性洗剤に浸した布をよく絞って清拭後、乾いた布などで拭き取ってください。
- 塩素系洗剤、ワックス類、揮発性のもの（シンナー・ベンジン・ガソリン、スプレー式防虫剤）は使用しないでください。変色や材質を変質させるおそれがあります。

消毒

消毒をする際は、専門の消毒業者に委託してください。その場合、塩素系、フェノール系は使用しないでください。70～80%のエタノール系を専門業者に情報としてお伝えください。

座面クッションカバー、背もたれカバーの洗浄

６０度までの温水であれば、一般家庭用の洗濯機を利用して洗濯できます。

使用環境と保管について

車いすは、氷点下３５度から摂氏６０度の生活環境下で使用することができます。
保管の際は、屋内または雨や雪を防ぐことができる屋根のある場所で大切に保管してください。

修理サービスについて

通常使用によるフレーム塗装はがれ、タイヤ交換、ブレーキの調整を除き、その他の専門的な修理については、ご購入販売店または総販売元カスタマーサポートへご相談ください。

保　証　書

お客様の正常なご使用により万一不具合が発生した場合に、本書記載内容に従って無償修理いたします。かならず本保証書を製品と一緒にご提示ください。

1. この製品の保証期間はお買いあげ頂きました日から１年間です。
2. ご贈答・ご転居などでお買いあげの販売店に修理をご依頼できない場合は総販売元カスタマーサポートにお問い合わせください。
3. 本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
4. 保証期間内において、部品や付属品の不具合が発見された場合は無償修理させていただきます。
5. 日常的に使用した商品のお取替えはご遠慮ください。
6. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
7. 製品の機能を維持するために必要な補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後５年といたします。
8. 本保証書は明示した期間や条件において、 無償修理をお約束するものです。従って、保証書によってお客様の法律上の権限を規制するものではありません。保証期間経過後の修理についてご不明の場合は総販売元カスタマーサポートにお問い合わせください。

保証期間内でも下記の記載内容に該当する場合は無償修理対象外となり有償修理とさせていただきます。

1. 保証書を紛失された場合、またはご提示がない場合。
2. 本保証書の必要事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。
3. お買いあげ後の輸送・移動・落下などによる故障、または損傷が発生した場合。
4. お客様の誤った方法によるご使用やお手入れによる場合。
5. 火災・地震・塩害・ガス害・風水害・落下・その他の天災地変により故障または損傷が発生した場合。
6. 無償修理以外の修理に要する運賃などの諸経費。

お客様へ

・この保証書をお受け取りになる時に、ご購入年月日、ご購入販売店名・ 住所が記載されていることをかならずご確認ください。
・修理期間につきましては、商品弊社到着後７日間を目安としておりますが、修理箇所、修理内容によりましてはさらに日数を要する場合がありますので、あらかじめご了承願います。

ご購入年月日	ご購入販売店名・住所（〒　　　　　　）
年　　月　　日	

総販売元

福祉用具総合メーカー
株式会社 幸和製作所
〒590-0982 大阪府堺市堺区海山町３丁159番地1
【カスタマーサポート】10時～17時（土・日・祝日を除く）
0120-508-058
フリーコール　コーワ　オーコーワ
http://www.tacaof.co.jp

製造元

Manufactured by:
Handicare
www.handicare.com